

公開講義「国内戦期はどんな天気？ 社会主義リアリズムにおける隠喩としての気候」

Какая была погода в эпоху Гражданской войны? Климатическая метафора в соцреализме

自然、とりわけ気象現象の描写は、文学作品において、どのような意味を持ち、いかなる機能を果たすものでしょうか。政治的、あるいは神話的と呼ばれることの多い初期「社会主義リアリズム」の文学と、その後の映像化の試みの分析を通して、ソ連と呼ばれた時代の世界観と詩学、政治と文学、人間と自然の関係を考察します。



ドブジェンコ監督『大地』(1930)から



【講師紹介】 ヴァレリー・ヴィューギン (Валерий Вьюгин) 先生

ロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所「文学理論・インターメディア」部門主任研究員。文学博士。専門はアンドレイ・プラトーフ、ミハイル・ゾーシエンコ、ダニール・ハルムス他、ソ連期のロシア語文学と映画。社会主義リアリズムから児童文学、マス・カルチャーまで、幅広い研究を進めている。著書に『ソヴィエト児童文学のパラドクス』(共編著・2013)、『詩学の政治:ソヴィエト文学史素描』(2014年)、『アンドレイ・プラトーフ謎の詩学:その文体の形成と進化』(2014年)ほか。埼玉大学客員研究員として、この4月から日本に滞在中。

2016年12月1日(木) 18時15分開始

京都大学文学研究科(文学部校舎)

2階 第5講義室

聴講無料・予約不要

使用言語:ロシア語(通訳あり)



問い合わせ先: 京都大学文学研究科スラブ語スラブ文学専修 075-753-2781(直通) nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp